遠野市史編さん活動報告　Vol.10

2021年
3月

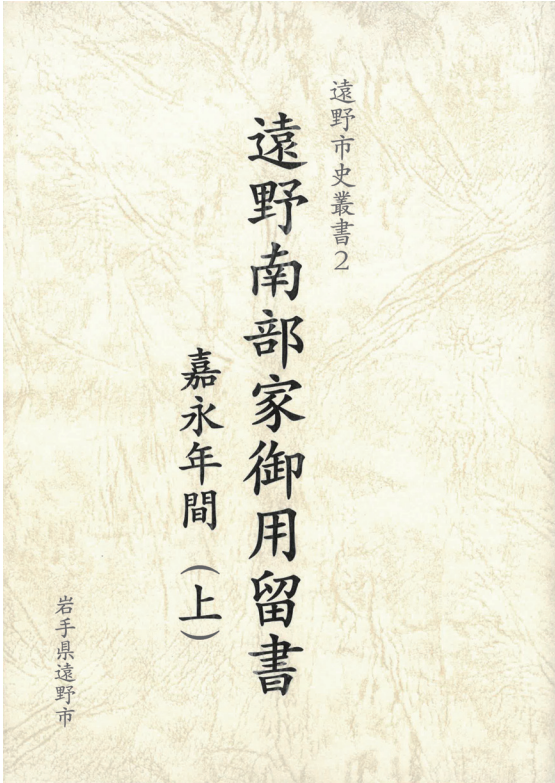
NEWS　遠野市史叢書２『遠野南部家御用留書 嘉永年間（上）』発刊！

遠野市史叢書の２冊目となる『遠野南部家御用留書 嘉永年間（上）』を発刊しました。

遠野市史編さん事業では、古文書や寺社、年中行事など、様々な調査を行っていますが、その中でも調査が進み、歴史研究の参考となる資料を遠野市史叢書として書籍化しています。

今回は、遠野南部家御用留書の中から嘉永２年（1849）と同３年（1850）の記事を収録しました。この時期の盛岡藩主は14代目の南部信侯（のぶとも）（のち利義（としとも））と15代目の南部利剛（としひさ）、遠野南部家当主は南部済賢（ただかつ）です。政情不安や異国船の脅威が高まる中にあって、嘉永３年４月には海岸御備場見分が命じられ、翌月には軍事演習に参加するなど、済賢は家老や大老として藩政を支えたことが記事から読み取れます。

『遠野南部家御用留書２ 嘉永年間（上）』は遠野市立博物館で販売するほか、郵送による販売も承ります。詳しくは市史編さん室までお問い合わせください。



Ａ５判212ページ、
定価は2,000円（税込）です。

部会の窓　第２回民俗部会研究会を開催しました

▲フィールドワークの様子。
感染予防のため、２班に分かれて行動しました。

２月26日（金）、27日（土）の２日間、第２回民俗部会研究会を開催しました。26日は遠野町家のひなまつりにあわせ、中心市街地のフィールドワーク＊を行いました。委員らは、各会場を巡りながら商家の暮らしやその店の成り立ち、雛人形の由来などについて興味深く聞き取っていました。

▲店舗内に飾られたひな人形やみずきびなを拝見

用　語　解　説

＊フィールドワーク　field work
…研究対象となる地域や場所を実際に訪れ、関係者への聞き取り調査や、資料（史料）を収集したりする調査方法。巡検とも。

部会の窓　第３回中世・文献グループ会議を開催しました

▲会議の様子

３月 23 日（火）、24 日（水）、第３回中世・文献グループ会議を開催しました。

23 日は資料編に掲載する史料の体裁や内容について協議を行いました。遠野の中世史に関する史料は決して多くありませんが、館跡やマイリノホトケ信仰など中世にさかのぼることができる史料や遺跡があります。これらをどのように掲載すれば利用しやすい資料編となるのか、今後どのような調査が必要かなど、内容を充実させるため委員らは意見を出し合っていました。

翌 24 日は、青笹町の月山深山宮（がっさんしんざんぐう）および上郷町の板沢館（いたざわだて）で現地調査を行いました。

月山深山宮は現在は神社となっていますが、火災にあって焼け残った仏像５体がおさめられています。これらはその特徴から平安時代後期に作られたものとみられ、市内の仏像の中でも特に古いものです。

今回は月山深山宮に隣接する本堂館（ほんどうだて）跡や周辺も踏査（とうさ）し、堀道などの痕跡から東側の小山がこれまで知られていなかった館跡であることもわかりました。

▲月山深山宮内を調査する様子

▲板沢館本丸の平場

板沢館は、上郷町の曹源寺の北側にある館跡です。一説には板沢氏の居城であり、建保（けんぽう）年間（1213-1219）の築城とされていますが、詳しいことはよくわかっていません。

今回の調査では、大きな空堀（からぼり）や、本丸を段々畑のように取り巻く曲輪（くるわ）を確認することができました。調査を行った中世・文献グループの斉藤利男グループ長および誉田慶信委員によると、中世の山城の遺構が、後世の破壊や開発をまぬがれてよく残っている貴重な館跡だということです。

曲輪（郭）とは、城の内外で陣地や倉庫、戦闘の足場を確保するために、土を削ったり盛ったりして平らにした場所のことです。

板沢館の東側には早瀬川が流れ、天然の要害をなしています。この日は六角牛山が綺麗に見えました。

市史編さん室では、古い時代の資料や館跡を調査しています。
古文書や古写真をお持ちの方は、ぜひ市史編さん室までご連絡ください。

編集・発行　遠野市民センター市史編さん室
〒 028-0515　岩手県遠野市東舘町３番９号（遠野市立図書館・博物館内）
TEL:0198-62-2340　FAX:0198-62-5758